

911.3
7
5

風

俗

文

選

序記
紀

五

釋



信
德
仁
義
禮
智
忠
孝
廉
恥

上
下
左
右
前
後
東
西
南
北

五
十
百
千
萬

詩歌俳諧辨

文
定
先
後
辯

豆腐辯

許六
天^エ
狗^ク
辯

木尊

手足辯

改村
人參辨

許六

射御辯

榮

風俗文選卷之九

五老井
第六

辯類

詩哥誹諧辨

文
州

一士あり大越上は、^{ハナキ}魂魔を犯く。法中ふ示して曰
恭奉多蒙けり。此新河海に波くるるす。中
おも俄遠の一流あつて、いづも御入るうとして、村舎を
老も千^{ホシ}夏と流し。秋萩を打さじとも。志く神と云。
おまのころこ小原形く。古女よ、いまするやまへふつ
しく弾指していへ。渠がごとく。なんぞあかきことを
なす。あひるはちもしうそよりあつじや。いとくは清誓^{コウチ}

2

[illegible]

A large, stylized, dark brown character, possibly a variant of '家' (family), rendered in a thick, textured, brush-like style on aged paper. The character features a prominent central vertical stroke with multiple horizontal and diagonal branches, creating a complex, almost abstract form. The ink is dark and has a grainy, textured appearance, suggesting it might be a reproduction or a specific type of ink used in traditional Chinese calligraphy. The background is a light, aged paper with some subtle variations in tone and texture.

雨しきまゐ

新と

新傳書

其

廣弘明書

厚

陳傳書

其



○表類

表井部六選

雨乞表

許六

皇天天上位イ一イしてより集。四海乃民とわじ。農桑
 かカこコうウとト蚕カイ飼イ時イ然イうイなイふイなイ。あアまアくア作イうイうイ
 みの波ミうミハミ乃ミかミまミてミあミれミ。いイろイふイ津イ然イうイのイ風イをイうイ
 ぬヌ里リくクもモなナうウりリきキりリ。さサうウふフのフ夏フ六月フおオけエいイ
 旱ヒ一イてテ。あア一イもモほホうウとト。十シ里リをウ指シてシあア比ヒいイちチ。而ニ
 川カあアまマくク川カあアまマくク。野ノ老ロうウさサきキうウ。村ム有ユ羽ウ饒ニつツたタ。
 牛ウ羊ヤ咩ミかんカんン。太タ鳥ニ舌シがガ彼ヘをウりリ。白ハク直チはハ早サあアうウふフまマ。日ニチ
 月ツキ々ツ赫カうウてテあアうウ。新ニ神シもモ岩イ穴ケツふフ川カ。みミ鳴ナ神シのノ

其の意を以て韓退之

厚為

引
魅乃金所

たねをうゑ
てふかき

祐海

仁二
ふ
仁
海

キウハクノ
美名

六

風俗文選卷之十

五老井 許六選

論類

族論

許六

[illegible]

休一。又室川の儀をさくく。十二時をあらたてやけも
もる二時と云一。神乃神也。満里一。て不勝をや。ま
か。し。是。と。論。せ。バ。二。時。之。八。が。よ。く。み。す。く。一。一。乃
糧。一。月。乃。糧。一。年。の。く。て。一。里。乃。糧。も。と。大。そ。く。一。心
計。其。根。ふ。く。を。源。と。云。一。二。馬。之。死。脚。の。や。一。も
旅。よ。せ。海。を。果。も。國。位。内。獲。の。さ。ぐ。い。も。使。よ。死。さ。む
そ。う。わ。て。心。の。も。し。は。終。る。と。使。バ。か。ら。乃。似。く。志。乃。さ。く。よ。お。
雲。龍。乃。論。な。り。し。我。お。一。衣。子。之。の。く。一。火。乃。火。乃。の。ま。
ま。で。ふ。使。す。る。る。ま。で。ふ。四。古。余。中。お。の。ノ。身。と。は。論。ト。て
ら。る。時。大。軍。の。將。ハ。罪。ナ。リ。と。い。ど。も。其。利。益。大。き。一
ゆ。一。吾。今。日。乃。一。時。と。も。わ。め。む。み。斗。一。乃。至。此。所。也。
ま。西。一。漂。泊。す。る。事。馬。子。駕。を。死。り。乃。論。は。あ。り。し。紙
よ。並。松。の。向。一。能。死。せ。じ。サ。使。バ。と。て。精。り。一。乃。胆。を。お。ひ。
真。虫。の。報。一。飽。く。る。紙。一。や。む。は。あ。る。も。

仁不仁論

北枝

○楠はくふ人を仁りて。鏑もるもおち不仁なりと云。醫
をあれ人を國を醫一。醫。ス。乃。名。周。々。仁。り。て。實。を。不。仁
なり。一。病。者。お。ひ。く。療。む。る。人。を。名。醫。と。も。と。や。了。醫。を
とも。一。也。さ。う。も。な。お。を。よ。ろ。く。也。ま。あ。ら。う。め。り。て。傳。え。し
む。と。不。仁。乃。事。一。さ。ま。べ。と。て。か。の。教。醫。大。ハ。年
さ。る。も。仁。と。い。ひ。が。ん。ま。く。乃。病。人。と。て。む。く。を。ん。

と云ふ。相識するに、世にこれなり。うゝと云ふ。うゝ
に親も不仕なり。人れ。じうゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝ
うゝ人ある。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝ
有る。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝ
乃人として。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝ
きて。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝ
て。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝ
屋も。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝ
うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝ
儲酒匠者。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝ
のうゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝ
うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝ
を。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝ

葛麥論

許六

夫々天ずき。地々地ずき。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝ
地人親とあつ。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝ
まゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝ
うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝ
えと云ふ。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝ
うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝ
まゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝ
まゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝと云ふ。うゝ

五ノ

卷之五

1
 2
 3
 4
 5
 6
 7
 8
 9
 10
 11
 12
 13
 14
 15
 16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100
 101
 102
 103
 104
 105
 106
 107
 108
 109
 110
 111
 112
 113
 114
 115
 116
 117
 118
 119
 120
 121
 122
 123
 124
 125
 126
 127
 128
 129
 130
 131
 132
 133
 134
 135
 136
 137
 138
 139
 140
 141
 142
 143
 144
 145
 146
 147
 148
 149
 150
 151
 152
 153
 154
 155
 156
 157
 158
 159
 160
 161
 162
 163
 164
 165
 166
 167
 168
 169
 170
 171
 172
 173
 174
 175
 176
 177
 178
 179
 180
 181
 182
 183
 184
 185
 186
 187
 188
 189
 190
 191
 192
 193
 194
 195
 196
 197
 198
 199
 200
 201
 202
 203
 204
 205
 206
 207
 208
 209
 210
 211
 212
 213
 214
 215
 216
 217
 218
 219
 220
 221
 222
 223
 224
 225
 226
 227
 228
 229
 230
 231
 232
 233
 234
 235
 236
 237
 238
 239
 240
 241
 242
 243
 244
 245
 246
 247
 248
 249
 250
 251
 252
 253
 254
 255
 256
 257
 258
 259
 260
 261
 262
 263
 264
 265
 266
 267
 268
 269
 270
 271
 272
 273
 274
 275
 276
 277
 278
 279
 280
 281
 282
 283
 284
 285
 286
 287
 288
 289
 290
 291
 292
 293
 294
 295
 296
 297
 298
 299
 300
 301
 302
 303
 304
 305
 306
 307
 308
 309
 310
 311
 312
 313
 314
 315
 316
 317
 318
 319
 320
 321
 322
 323
 324
 325
 326
 327
 328
 329
 330
 331
 332
 333
 334
 335
 336
 337
 338
 339
 340
 341
 342
 343
 344
 345
 346
 347
 348
 349
 350
 351
 352
 353
 354
 355
 356
 357
 358
 359
 360
 361
 362
 363
 364
 365
 366
 367
 368
 369
 370
 371
 372
 373
 374
 375
 376
 377
 378
 379
 380
 381
 382
 383
 384
 385
 386
 387
 388
 389
 390
 391
 392
 393
 394
 395
 396
 397
 398
 399
 400
 401
 402
 403
 404
 405
 406
 407
 408
 409
 410
 411
 412
 413
 414
 415
 416
 417
 418
 419
 420
 421
 422
 423
 424
 425
 426
 427
 428
 429
 430
 431
 432
 433
 434
 435
 436
 437
 438
 439
 440
 441
 442
 443
 444
 445
 446
 447
 448
 449
 450
 451
 452
 453
 454
 455
 456
 457
 458
 459
 460
 461
 462
 463
 464
 465
 466
 467
 468
 469
 470
 471
 472
 473
 474
 475
 476
 477
 478
 479
 480
 481
 482
 483
 484
 485
 486
 487
 488
 489
 490
 491
 492
 493
 494
 495
 496
 497
 498
 499
 500
 501
 502
 503
 504
 505
 506
 507
 508
 509
 510
 511
 512
 513
 514
 515
 516
 517
 518
 519
 520
 521
 522
 523
 524
 525

子紀鬼之枕

五

436
1

卷之五

久々

ト。
佛公堂

つとむる

當財

三

卷之六

是

葬

和公和

之實と

小笑而視

新氏

やうな

と云ふ

襪

日月乃相遠く。今日乃雖もいふまゝに春風あり
 こゝろに飯料不足を補ひじむ。毎月いかにいふも
 月く。飯料をやりあふ。二款にいぬるにあらざり。一
 乃中。二目らみきて。其方魚のぬ日。うはさし。其
 船の人のさるふ。ふらふと業ハ防る。乃さねられ。成其の
 時とつて。うらと和ま。加衣。衣の伸る。今
 公。公とあり。つる。雨をかり。凍。つる。衣をさる。あも
 見え。さる。防る。なり。き。固く。佛法をさ。み。く。浮世
 とや。ま。あ。い。人。乃。さ。れ。う。ち。と。さ。く。神。儒。佛。の。最。初。の
 ま。う。う。か。ん。な。ま。し。よ。ぬ。く。な。る。て。聖。人。佛。も。出。世。

流乃佛も出世。多び。び。一。光。乃。二。母。と。許。う。る。ハ。聲
 も。男。も。聖。人。乃。家。あ。い。あ。ま。嫂。あ。び。う。時。さ。う。合。を。く。り
 う。い。う。る。ハ。豈。孟。軻。乃。流。め。あ。う。ど。め。佛。ハ。功。徳。を。と。ま
 へ。遠。磨。乃。無。功。徳。を。い。さ。る。さ。う。こ。ま。は。は。乃。あ。う。う。み
 かりん。又。當。内。凡。家。の。人。聖。人。佛。な。り。て。何。の。益。あ。ん。
 ぞ。う。一。家。乃。中。の。聖。人。と。せ。世。乃。を。子。け。ふ。な。り。く。う。そ。
 上。は。友。を。浪。人。の。り。し。ハ。工。商。農。業。乃。人。々。今。返。回。施。を
 か。さ。る。う。う。被。道。を。わ。け。乃。損。を。して。た。ち。ま。ち。非。人。を。食
 たり。う。う。時。別。の。ぬ。う。う。お。う。う。時。は。あ。う。ぬ。と。は。深。々。わ
 とも。な。り。あ。い。き。聖。人。佛。と。う。や。す。じ。う。わ。さ。う。思。念。痴
 小。令。衆。を。さ。く。く。人。世。乃。ぬ。人。の。ぬ。か。う。う。ゆ。う。ハ。中。聖。

人...
...
...
...
...
...
...

...
...
...
...

血

舊唐書

石知碩

五老井

李由

まふしをいひわたり乃一冊として神代より傳へたる。又連
 可より出づるものあり。其法式、連斗よお知れどあれ
 かちと言。新式よあむむなるは、他流、誹諧、誹諷、滑稽、儒
 源、謎字、空戯、鄙談、狂言、九川のふくまき、これらはいふ
 歌謡のよあるらん。また、うたをうたふ人なり。公伝、経書、それの人
 もあらざるものなれば、末代よこゝにいふまゝありと云ふ。御抄も
 ともひよなるも、古今千載は格遺おもつて、結末を今ならん
 ふも。九乃申ふ。相うるらん。こと、和名、末代乃、何ぞ

わけて。甲斐あてし。もたう。彼も。あま。さう。て。あ。い。か
と。な。り。は。う。わ。石。常。乃。甲。斐。乃。お。り。う。わ。い。し
大。施。よ。す。り。こ。み。障。子。の。穴。よ。を。要。を。か。し。て。は。余。本。乃
ま。こ。さ。我。信。う。り。獨。居。世。言。行。は。信。も。旅。店。山。野。の。ろ
づ。い。れ。や。も。其。貴。貴。よ。も。な。い。鄙。賤。ま。う。ど。う。も。あ。い。か
乃。余。乃。親。乃。ん。い。や。も。わ。年。よ。似。合。ぬ。あ。い。に。よ。い。他。邊。の。小
ゆ。う。さ。ま。野。老。村。童。も。賤。月。お。り。乃。い。う。を。便。い。馬。は。和
顔。も。山。川。万。事。の。勞。を。な。く。さ。む。走。他。ら。市。井。も。あ。つ。く
い。れ。乃。さ。し。ふ。と。う。や。じ。の。な。る。今。く。山。本。乃。道。の。ま。は。り。ま。
目。よ。う。く。ぬ。鬼。試。法。だ。雲。本。乃。心。法。や。う。く。も。ま。は。り。法。お
連。珠。と。い。ふ。い。や。

何。れ。も。さ。う。や。う。い。ふ。お。ま。乃。今。を。こ。し。う。ら。ハ。タ。シ。他。邊。の
傳。也。歌。言。信。傳。と。う。君。乃。年。一。大。す。連。珠。と。い。ふ。傳。と。う。
して。や。じ。ど。あ。い。れ。と。う。あ。ま。も。も。け。さ。り。宗。祇。一。代。を。而
顔。と。花。と。な。り。な。り。う。家。名。乃。内。ふ。く。か。れ。み。花。屋。と。
而。二。乃。執。持。を。要。す。續。々。毒。あり。と。う。余。乃。人。の。縁。を
よ。信。法。を。か。う。他。邊。信。傳。と。う。持。う。ま。い。も。ふ。お。り。お。あ。
も。お。あ。め。く。思。し。乃。流。行。ふ。新。内。を。か。こ。も。こ。こ。を。所
乃。す。ら。れ。る。お。一。か。う。と。う。

蕎麥切頭

雲鈴

蕎麥切頭といふ。信法。お。山。本。乃。中。く。あ。ま。の。う。

平野 眞

西行上人像讚

芭蕉神農像讚

涼免

團扇贊

荊口入學子贊

許六

紫竹園贊

許六

贊類

○讚贊類

五老井

西行上人像讚

芭蕉

いそろそろ。かきこまふ。とちろとちろ。おろしどろを。雪を。少く。日ま。

さくさく。あけ。花を。ゆき。日。さく。や。い。す。

神農像讃

原亮

神農よそと稱ふふと稱する人。は神といふ供にまじり
ど。薦^{ユミ}まうふを合は。しるもきくもくこの里いふ神
十善の位うおつて。もづもふおをさうめりひ
さいい。春ゆんぬあそびよ。昨来^{サカ}あうつといふ
まじい。ふ外うづもく神の活井なま。

神農

あひんむせ
あひんむせ
あひんむせ

團扇賛

形に

神あると歌あり。ふんいあま。おほくを祖女が似せ
つひと被うたは乃おあなま。中うまふ山
まあうふはは

月よ梅をさうきうはる團扇をふりさう
まをたか。上弦下弦。月乃被う入ね合見もあ
か。今迄流乃ちうたは。その儂乃美解^{アガリマキ}いふ
今一帯。塩梅^{シホ}うは賛うて曰。

味あつてあがうたはうは團扇

入學詩贊

許六

（澤家何ぐ）猪子。活。入。ぐ。道。と。す。れ。ふ。契。ト。て。い。く。
と。ろ。ま。し。一。は。機。樞。七。年。乃。才。と。い。ふ。る。鈍。り。て。い。く。
あ。た。ら。し。一。は。一。く。大。ま。お。幅。す。る。あ。り。と。い。ふ。あ。り。と。い。ふ。
い。く。

本相了。ま。げ。な。る。相。乃。若。常。す。

紫芝園贊

許六

五老井四絶之一絶也

（西華芝乃）花。い。く。と。い。ふ。は。昔。に。然。あ。る。回。ら。か。ざ。い。と。い。ふ。
い。く。ま。る。く。乃。村。と。い。ふ。と。い。ふ。い。く。と。い。ふ。い。く。と。い。ふ。い。く。
代。は。あ。り。く。と。い。ふ。い。く。と。い。ふ。い。く。と。い。ふ。い。く。と。い。ふ。い。く。
あ。り。ち。と。い。ふ。代。も。あ。り。ま。じ。う。と。い。ふ。地。を。な。れ。ば。い。く。
と。い。ふ。と。い。ふ。い。く。と。い。ふ。東。坡。の。人。家。は。あ。る。堂。西。は。
小。園。ま。る。と。た。井。乃。石。と。い。ふ。石。と。い。ふ。石。と。い。ふ。石。と。い。ふ。石。
あ。り。味。い。鶏。の。子。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。
と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。
老。乃。比。な。る。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。
と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。

靈芝之

五老井四絶之一絶也

回。ま。乃。孫。の。ま。と。な。る。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。

神。乃。孫。の。ま。と。な。る。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。

か。ま。く。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。

院 艷書

日蓮上人報書

書

書類

五老并記選

院 艷書

○ふすくのおり^{フシロフ}もあつとつてああり。鸞^ル姫^{ヒメ}をいふと
かまやふふとふうりどきまてとりど。ゆくまゐも
みか^{ミカ}り^リく。おと^{オト}と^トか^カみ^ミ字^ジ乃^ノ凡^ハ一^ハえ^ハる^ハた^ハて。

日蓮上人報書

、物^{モノ}まを^マひ^ヒ。ふ^フく^クい^イな^ナ云^{クニ}ふ。い^イや^ヤう^ウの^ノ物^{モノ}ま
南^{ミナミ}無^ム妙^{ミョウ}法^{ホフ}蓮^{レン}花^カの^ノ回^ヘ向^{キョウ}い^イく^ク。

昌清文字序

上古目^ナ中^ナ乃^ナ文字ありて。今^ナは用^ナあるのみ。あ
 字あり。い^ナの^ナ比^ナより。漢^ナ字より。て。中^ナ乃^ナ
 文字あり。果^ナて。人^ナも。假^ナ名^ナ字^ナ。い
 文字あり。の^ナ事^ナ。訓^ナと声^ナと。文^ナへ用^ナ也。
 大^ナ神^ナの^ナ文字あり。男^ナ女^ナの^ナ早^ナ。わを
 大^ナ神^ナの^ナ用^ナを。源^ナ順^ナ。系^ナ系^ナ系^ナ系^ナの^ナか。あ
 声^ナと訓^ナとのま。い^ナふ^ナが。故^ナなり。け^ナる^ナ。た^ナ備^ナ
 乃^ナ制^ナ衣^ナ作^ナて。アイウエヲ乃^ナを。お^ナの^ナ文字

と。大和假名といひたり。又いはは又はなせし
弘法乃作とのいふも。一説に。一説に
以呂波仁保土知利奴留遠。

以上一字漢字乃作。

和加与太礼曾門祢奈良年宇為乃於又也
末計不已衣天安左幾由女券之惠比毛世
寸。以上一字漢字乃作。

京乃一字乃作教乃作也。いははとて四十七字
なるは。はあけ一字を加へ。も教を境の男はと。
王女乃字はあすぶよんぎとて。一二三よ。千乃字の
数字は。聖徳太子のかどふと。ふ流りといふ。又々
空海。勅撰。傳教の之師。其ノ道ともいつて。又兼良
乃纂疏。四十七字とて比り。弘法の夢。彼漢字を
假く。和字とみえとや。さしあはれを國字といひ
て。天皇震怒よ。此字といひ。是よりいへ。漢字
ひて。その中のすぐなるとや。又の字も。も。弘法
の乃字は。あすぶよんぎとて。あすぶよんぎとて
ふが。あすぶよんぎ。弘法は代に仲乃字。弘法は

ふつた。ふはひといふ。定火おち移しなり。秋風の
授物めで。是を志しきと移し。き下のりすれ
べし。されど大ねとふよ用る。假名遣はまじく
まじなり。よたおひまふとて然べし。これと
陀羅尼字類なり。假名遣一箇を。おまのとの
志しきとす。て志わく。吾能強のよう。ねく
吟味をむむ。いふ。かたべし。きじかれおのき
よ。いふ。彼のいふと。きと。かほあると。才と
ま。ま。た。ら。文。字。お。い。ふ。も。と。移。し。い。ま。る。文。字。を
こ。つ。い。あ。や。り。て。古。篆。乃。篆。書。よ。き。と。い。ふ。の。所。
真らまなり。行なまじもや。まらた。篆。書。も。い
く。ま。い。き。く。行。を。や。い。も。よ。あ。い。も。ま。い。ふ。精
か。い。と。お。も。い。ふ。篆。字。よ。い。い。く。を。源。を。き
て。き。る。べし。されど。和。名。乃。あ。は。文。字。も。い
ふ。字。遣。ひ。て。き。る。い。ふ。と。い。ふ。異。い。お。い。ふ
い。い。り。と。き。る。文。字。乃。い。ふ。字。を。す。と。や。た。異
ふ。人。も。い。ふ。あ。い。ふ。べし。と。九。章。亭。の。人。
糸。氏。は。村。風。俗。文。藝。の。れ。づ。い。と。き。る。

まじらぬ。二就を跋も。青室永三丙寅
二月望



有妙在初又逢金初十卷名五老并
祥六先生之撰也常事先生新范意
符之志又素未調而山之先生十
五年来能此志終之功未解然志
之深藏之門人等亦難朽又原二三
子合力而傳教書後為自他世之
出與書林并荷屋國之梓金世一字
從最至教中只恐傳倫罪可憐
和歌之神清符名守

寶永三年丙戌年秋九月吉日

石虎井門人



洛下一條下寺町野田沼共衛尉梓

白石石溪土郎主

天保八年丁酉六月求版

浪華中村三史堂

心齋橋通本町北江入

鹽屋彌七

